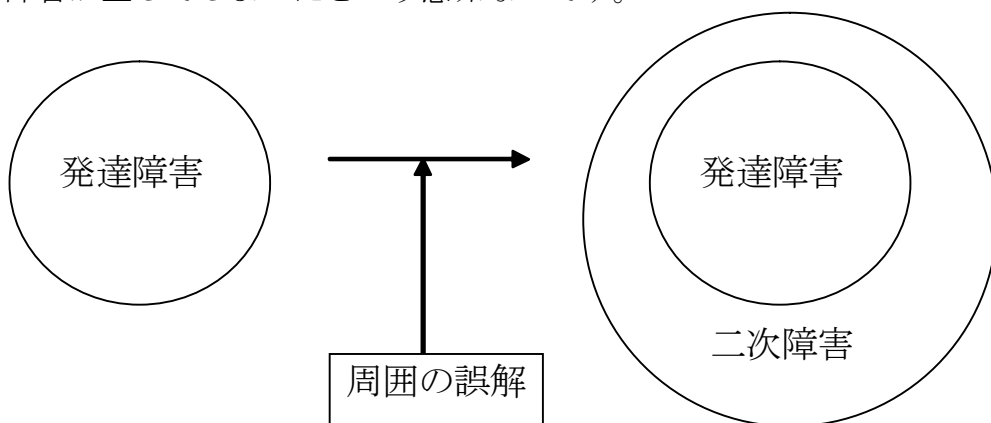




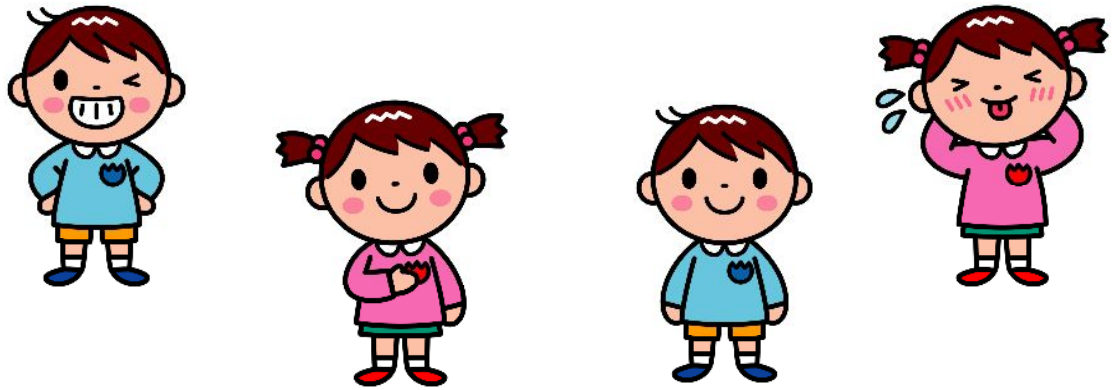
《発達障害の二次障害について》

発達障害という用語自体は診断名や障害名ではなく、いくつかの障害をひとまとめにして呼ぶ用語です。多くの場合、精神遅滞（知的障害、精神発達遅滞などとも呼びます）、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー障害などの4つを指します。これらに共通するのは、一定の発達・行動上の特徴が幼小児期からみられ、原因は原則として脳の先天的な機能異常であるということです。

これらの障害をもつお子さんは、明らかな身体的異常は伴わず、外見上まったく普通のお子さんに見えることも少なくありません。また、特定の能力は全然問題がなかったり、むしろ普通よりも優れていたりしている場合があります（例えば、歴史の知識は豊富、など）。そのためしばしば、障害があることに気づかれなかったり、「頑張ればできるのではないか」と思われたりして、無理な努力を強いられることがあります。そして、周囲からは、「努力の足りない子」「ダメな子」「しつけのできてない子」「悪い子」などといった目で見られることもまれではありません。その結果、お子さん自身も自分がそのような子どもであると感じ、自信をなくしたり、やる気をなくしたりしてしまいます。なぜなら、子どもは皆自分が周囲の人たちからどのように見られているかにとっても敏感で、それをそのまま受けとってしまうからです。周囲の理解が得られないままこういった状況で育ち続けたお子さんはやがて、うつ病になったり、非行に走ったりすることもあります。これを「二次障害」といいます。「二次」というのは、もともともって生まれた発達障害を正しく理解してもらえないために、いわば「2つめ」の障害が生じてしまったという意味なのです。



脳の先天的な異常である発達障害は、残念ながら今の医学では完治することはできません。しかし、周囲の人たちが発達障害を正しく理解してお子さんに合った支援をすることにより、「二次障害」を防ぐことは十分可能です。最近発達障害についての出版物も増え、テレビなどでの報道や、講演会もたくさん行われるようになってきました。こういう機会を上手に利用して、発達障害をもつお子さんの特性や気持ちをしっかり理解してあげたいものです。



それぞれの障害の特性

広汎性発達障害

自閉症

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

注意欠陥多動性障害

(ADHD)

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）

知的な遅れを伴うこともあります

学習障害（LD）

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>

